

Trans-Residential Theatre

本シリーズについて

建築を視ることには、二つの目的があると考える。ひとつは、「歴史を知るため」。もう一つは、「鑑賞するため」。

しかし、公開される多くの文化財建造物では、往時の様子を再現しながら、その歴史の紹介をするに留まっている。果たして、建築の鑑賞は、いかにして可能だろうか。そもそも言葉のもつ限界もある。そこで、空間でみせることを生業にしている黒田瑞仁(演出家)、渡辺瑞帆(scenographer/建築家)の二人とともに、2017年秋より「家を渉る劇」という活動をスタートさせた。文化財建造物を利用して、演劇をおこなうに至ったのは、そこに「演出」というプロセスが介在することに尽きる。そのプロセスが、気付かぬ見方を発見し、さらにはその具体的な共有方法までを提示可能な、実践となり得ると考えたからである。この活動では、外環境を一切遮断できる劇場とは異なり、演出家には既存を活かすという思考のスイッチが必要となる。そうした通常の建築見学とは異なる経験を強いることで、建築を知るという経験を超えた、鑑賞体験をもたらしたいと考えている。

本活動が上演の間だけでも「家」を、凍結された歴史から解放して、演劇を、そして建築を鑑賞する場を提供できないかと思ひ、この活動を続けていく。

二〇一八年十月吉日

企画者のひとり 本橋仁

About the "Trans-Residential Theatre" project.

There are two purposes in "seeing" architecture. One is to "learn its history". The other is to "appreciate".

Although many architectural cultural properties that are open to the public maintain the interiors of when it was active, there is no more function than to introduce its history. How can one appreciate literature? Word have such limits. So along with Mizuhito Kuroda (director) and Mizuho Watanabe (scenographer/architect) whose expertise lies in creating relations with spaces, we began the "Trans-Residential Theatre" project since Autumn 2017. The process of "direction" is a key factor of creating a theatrical project in cultural properties. This process opens new perspectives, and presents them as practical methods of sharing. In these environments, unlike in theatre buildings that can shut out the exterior environment, the director is demanded to create a new way of thought that makes use of what is already present. I believe engaging with architecture in a context very different from usual tours will bring a new level of appreciation that transcends the boundary of "learning" about architecture.

I continue this project with hope that during this performance, the "house" that is frozen in its historical context becomes free, and offers a new place to appreciate theatre, and architecture.

Jin Motohashi (Architectural Historian)

家を渉る劇

リンドバークたちの飛行
作：ベルトルト・ブレヒト 訳：岩淵達治
Lindbergh's Flight
Written by Bertolt Brecht
Translated by Tatsuji Iwabuchi

本日はご来場いただきありがとうございます。
ゲッコパレードは常に、演劇は見るのではなく体験するものだと考えています。この公演の一番最初のアイデアは「冒険すること」。それができる戯曲を探しました。「リンドバークたちの飛行」はラジオ教育劇であり、劇場という上演場所を想定しないこの戯曲はどこでもインストールが可能で、「このシリーズについて」で触れるような、観客による演劇や建築の体験に最適なものでした。あらずには「リンドバークが大西洋を横断する」という単純なものが、補足すれば唯一「8イデオロギー」は科学による自然の超越を謳っています。「明日にはもう君たちは僕の飛行を笑うだろう」という台詞は、「いまだ到達しえぬものについての報告」のタイトルと併せて、ブレヒトの文明に対する冷静な眼差しが感じられるようです。みなさま、どうぞ足元にお気をつけて。新しい場所に踏み入れる楽しみと危うさを、リンドバークと共に楽しんでください。

2018
10.17 Wed. 14:00 / 17:00 / 19:30

Thank you for coming today.

GECKO PARADE always believes that theatre is something that you "experience", and not something you "see". The first idea of this show was to "go on an adventure". "Lindbergh's Flight" was a Radio Lehrstücke. This play that does not require a traditional theatre for its performance can be installed in any location, and seemed to connect with the theatrical and architectural experience we wish to create, which you will find more detail in "About the Series".

The premise is quite simple. Lindbergh crosses the Atlantic. The only exception is "8- Ideology" that praises the prevalence of science over nature. Along with the chapter title "17- Report on the unattained", Lindbergh's words such as "Tomorrow, you will laugh of my flight" gives us a sense of the hard views Brecht had towards civilization.

Everybody, please watch your step. I hope you and Lindbergh enjoy the thrills of setting foot into a whole new place.

GECKO PARADE
Mizuhito Kuroda



早稲田大学演劇博物館開館90周年記念
2018年度秋季企画展
現代日本演劇のダイナミズム記念イベント
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
〒169-8050
東京都新宿区西早稲田1-6-1
<https://www.waseda.jp/enpaku/>

謹告

市松構成・演出・振付、崎田演出
砂と水玉新作シリーズ『透明な森』
vol.2 『しらなま わすれた おしえなま』
11月2日(金)19:00/21:30

市松構成・演出・振付
vol.3 『phantom pain』
12月12日(水)19:00/21:30
会場・綜合藝術茶房喫茶会館(四谷三丁目)

本橋仁・担当展覧会
世紀末ウィーンのグラフィック
『デザインと生活の刷新に向けて』
1月12日(土)12月24日(日)
主催 京都国立近代美術館
読売新聞社

渡辺瑞帆担当プロジェクト

10月15日(日)12月10日(土)
「関野吉晴ワンダースペース」◎武蔵野美術大学美術館
会場構成

12月12日(水)12月24日(月)
『オディッス REXXX』@KAAT
空間構成

プチ・パトロンチケット収益利用報告

2018	2017	2016
年2月26日照明機材購入費として84,432円 年9月18日音響機材(パワードスピーカー)購入費として19,224円	年9月28日照明借用費として56,492円	年5月31日音響機材(アナログミキサー)購入費として11,664円 年8月24日照明協力スタッフ人件費(一部)として20,000円 年12月21日オルガン運搬費として21,698円

観劇の際に皆様からお支払いいただくチケット代金は、作品を創造・上演するための会場費・人件費・舞台費・文芸費・製作費として充てさせていただきます。皆様の観客としての参加が芸術活動を支えています。この場を借りて御礼申し上げます。

web <http://geckoparade.com/>
mail geckoparade@gmail.com
〒335-0003 埼玉県蕨市南町2-8-2 旧加藤家住宅

早稲田大学演劇博物館開館90周年記念
2018年度秋季企画展 現代日本演劇のダイナミズム

会期：開催中-2019年1月20日(日)
10:00-17:00(火・金曜日19:00まで)
休館日：11月2日(金)、7日(水)、21日(水)、12月5日(水)、19日(水)、23日(日)-2019年1月6日(日)
会場：早稲田大学演劇博物館2階企画展示室
企画協力：徳永京子(演劇ジャーナリスト)、佐々木敦(批評家、HEADZ主宰)
空間：杉山至(舞台美術家)、中村友美(舞台美術家)

